

当院における NST 活動の現状。

三重県立志摩病院 NST

河北知之（医師）、前田宏美（看護師）、向山美幸（薬剤師）、池村志穂（看護師）、松井華代（看護師）、織戸万有（看護師）、萩原味香（管理栄養士）、森本梨加（臨床検査技師）、吉村平（医師）

三重県立志摩病院は、へき地医療拠点病院、災害拠点病院の指定を受け、志摩地域及び三重県南地域における精神科病棟も備える総合病院として位置づけられてきました。365日24時間の2時救急を行い、医療の質の向上のため、院内ではNST以外にも、産科チーム、緩和チーム、ICT、褥創チーム、呼吸チーム、腔ケアチームなど横断的なチーム医療が育ち、チーム医療を病院職員全員で行う環境が育っております。

当院でのNSTは、2004年より開始。栄養管理が必要な患者に対し各職種の専門性を生かし、それぞれが知識や技術を出し合い最良の方法で栄養支援を行うことを目標に、医療の質の向上に携わってまいりました。週一回のNST回診を主な活動とし、スタッフミーティング、勉強会、NST新聞発行などの活動を行っております。2008年度末までに計239例の方にNST介入を行い、栄養管理においてよい影響を与えてこれたと考えております。

しかし、近年の医師不足や医療情勢のあおりは、当院にも厳しく影響しており、医師・看護師をはじめとするマンパワーの不足に伴い、神経内科、脳神経外科、産婦人科、小児科などの科自体の撤退・縮小や、病棟の閉鎖をはじめとする各種業務の縮小が余儀なくされているのが実態です。NST活動においても、各スタッフが日常業務をこなすことにあまりにも忙しくなり、今までの活動を維持していくことが難しくなっています。特に深刻な問題として、NST活動を行ってくれる後継者不足があげられ、NST自体が絶滅の危機に直面しています。

今回の発表では、今後の当院における問題点を報告し、その問題に対する解決を模索したいと思います。